

コポ丸が見た! コープクリーンのお仕事

洗浄力試験



洗浄力の評価は専用の機械を使用し何度も試験。検証で使用する水の温度はもちろんpH値もそろえます

仕様の検証



新商品は実際の製造ラインで試作する前に、小規模な釜で問題がないか検証します

パッケージの確認作業



菌検査



保管時にも雑菌の繁殖や変質しないか確認します

おうちでリモートワーク中の営業部 岩橋さん

▼さまざまな洗濯機で洗浄力の試験をしています

オンラインで
産地メーカー
をたずねて

株式会社
コープクリーン
(埼玉県蕨市)



「安全な洗剤を」 組合員の願いをセフターに

株式会社コープクリーンは日本生協連の関連会社。コープの洗剤やボディソープなどの処方研究開発をはじめ原料や包材の調達、生産・品質の管理から輸送配送計画管理、営業までを一貫して担っている生産工場を持たないメーカーです。営業部 岩橋秀和さんにお話を伺いました。

コープクリーンの誕生

下水道や下水処理施設が整備されていなかった1960年代、一般家庭から生活排水が直接河川に放流され、川が泡だらけになる、海では赤潮が発生するなど水質汚染が社会問題となっていました。水質汚染を改善できないかという組合員の思いを受けて日本生協連はより良い洗剤の開発を進めていました。また当時は製造メーカーの立場が強く、指定価格より安く販売すると出荷を止められるなどの課題もありました。「日本生協連の目が届くところで、安全・安心かつお求めやすい価格の洗剤を供給したい」との思いから、1978年、原料メーカーとの共同出資により日本生協連の関連会社として設立されたのがコープクリーンです」と岩橋さん。組合員の声をいっただきながら独自の商品開発が可能になり、安価で良質な洗剤を全国の生協組合員に提供することができるようになりました。

水環境に配慮する コープの洗剤の歴史

生活排水による河川の汚染が社会問題となっていた当時、多くの洗剤に使用されていた界面活性剤ABS(※1)よりも生分解性の良いLAS(※2)を使用した洗濯用洗剤「コープソフト」が生まれました。その3年後の1969年、LASを用い

ず、より生分解性が高い高級アルコール系界面活性剤を利用した洗剤「コープセフター」が生まれました。大手メーカーの洗剤が同様の成分に切り替わるより10年以上早い転換でした。

※1:ABS…アルキルベンゼン
スルホン酸ナトリウム
※2:LAS…直鎖アルキルベンゼン
スルホン酸ナトリウム

環境に配慮した洗剤をめざして

近年ではプラスチックごみ削減や地球温暖化防止など組合員の環境配慮の意識も多様化しています。コープクリーンでは、1981年に液体洗剤の詰替え用の発売、粉末洗剤容器のプラスチック製取っ手廃止や付属スプーンのない詰替え用を開発。また需要が高まる大容量詰替え容器に紙パックの「カートンボックス」を採用するなど組合員の暮らしの変化に合わせて環境問題に取り組んできました。

また、コープクリーンは2006年に「持続可能なパーム油のための円卓会議」(RSPO)に加盟しています。主原料であるパーム油を生産するためのアブラヤシ農園拡大が貴重な熱帯林喪失の大きな原因になっていることを受け、自然環境や生産者の生活を守りながら将来にわたってパーム油の生産と利用ができる仕組みづくりに取り組んでいます。



日本で使われる植物油の約1/4がパーム油といわれており、食用以外にも洗剤や化粧品、化学製品など広く使われています。



容量 1,500g/800ml

1990年代
コンパクト洗剤・
液体洗剤登場

スプーン1杯で洗えるコンパクト洗剤の時代へ。液体洗剤も誕生。



容量 2,650g

1980年代
石油系から
植物由来原料へ

使用される界面活性剤を石油由来から植物由来に順次変更。



容量 2,650g

1960年代
コープセフター
誕生

従来のLASより生分解性の良い高級アルコール系界面活性剤を採用。